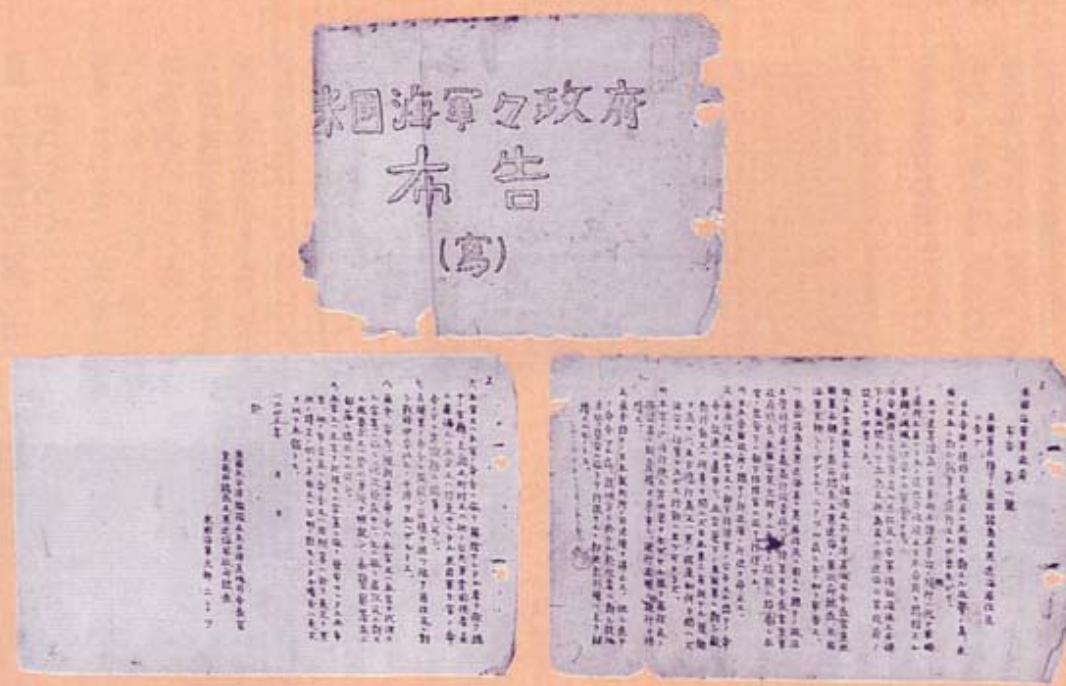


ARCHIVES

アーカイブス

沖縄県公文書館だより 第3号

1996年7月1日発行



特集：沖縄県公文書館開館一周年

特集 ■ ■ ■ ■ ■

沖縄県公文書館

開館一周年

館長インタビュー

公文書館の一年をふりかえる

「米軍占領時代の膨大な量の琉球政府文書をどう保存するか」という発想からスタートした公文書館建設構想。それを受けて平成七年八月一日、沖縄県公文書館は開館した。開館から一年を迎えるとしている今、宮城悦一郎館長に一周年記念事業の意義を聞いた。同時にこの一年をふりかえり、今後の抱負を語つてもらった。

一周年記念事業では「琉球政府の時代」がテーマですか

館長 歴史のなかで見ると、異民族支配の時代が持つ意味は非常に大きい。しかし、これまで琉球政府の時代は支配、被支配という構図でとらえられがちだった。

さまざまな制限があったにもかかわらず、占領時代の二十七年は沖縄の人たちが行政、政治、経済の面でいろんな学習をして、経験をつんだ重要な時代だった。

確かに「被支配」という暗い一面を持っていたが、それをバネに、主体的に生きてきた時代だった。そういう見方で「琉球政府の時代」を一周年記念事業の

テーマとしてあげた。占領下での土地闘争や復帰運動の経験は、現在の基地をとりまく民衆の動きに共通する面を持っている。そのような面から、琉球政府の時代をもう一度見直してみようということがねらいだ。

この一年をふりかえっての感想は?

館長 備品の整備、文書の収集・整理・データベース化など、

この一年とにかく、しゃにむにやってきた。特に琉球政府関係の文書を個人、団体から収集することに力を入れた。

県内外、国外から多くの寄贈や寄託があったが、これまでいろいろな資料を提供してくだ

さった方々には、特にお礼を申し述べたい。設備の面ではかなり整ってきた。

館長 これまで「公文書館たより」を発行したり、「沖縄の戦後史を語る」をテーマに、十回の連続講座を開催してきた。今後も琉球政府や戦後史に関する講座を計画的に開き、それをもとにしたオーラル・ヒストリー(口述回想録)を作っていく予定だ。



今後の展望について

館長 引き続き、琉球政府文書を収集していく。また、国立国会図書館との連携により、米国立公文書館蔵の膨大なUSCAR(琉球列島米国民政府)文書、その他英文資料の収集に力を入れる。同時に沖縄の近代、琉球

さった方々には、特にお礼を申し述べたい。設備の面ではかなり整ってきた。

公文書館の県民へのPRについて



開館一周年記念

記念事業・イベントのお説明

八月一日から七日までの一週間、

沖縄県公文書館では、公文書館の業務について多くの人の理解を広め、利用者の増大、資料収集の拡大をはかることを目的とした「開

事業内容として、当館所蔵の公

文書、刊行物、私文書を展示する

特別展「琉球政府の時代」をはじめとし、琉球政府、沖縄戦後史に

ゆかりの深い方々を講師に招いて

の特別講演と全三回の講座、また、

当館のAV施設を使っての映像祭

などのイベントを予定しています。

その他、館内各所をめぐる「公文

書館案内ツアー」、公文書館の仕事の一部である資料の修復作業を

実演し、資料保管のための保存箱づくりを指導する「保存箱教室」

など、公文書館の業務を一般に公開する機会も設けています。

どなたでもご参加ください。
詳しい日程は左ページ表の通りです。

開館一周年に寄せて

(財)沖縄県文化振興会理事
沖縄県公文書館懇話会副会長 喜久川 宏



す。

県民のかねてからの願いであつた公文書館が開館して早、一年を迎えるようとしています。このような立派な公文書館が設立されたことは、夢の実現といつてもよい程の画期的なことであるとともに、一年という短期間で多くの文書が収蔵され、県民へのサービス体制が着々と整えられていることは、関係者の並々ならぬ御努力が積み重ねられていることとして、あらためて敬意を表したいと思ひます。

沖縄県の歴史での最大の痛恨事は第二次大戦での県土の破壊と、数々の文化財の喪失であったことは云うまでもありません。そこで失われたものは永遠に戻ることはないかも知れませんが、然し歴史のなかで培われた文化スピリットは脈々と流れ受け継がれており、文化的アイデンティティーの確立のために多くの県民が力を尽くしていることはひとしく認められることがあります。

このような県民の気持ち、願いを確かにものにするための拠点がこの公文書館であると思います。

幸い、公文書館の存在の意義を多くの県民が認識し、活用はもとより内容充実のために有形無形の協力が寄せられているとのことを聞き、公文書館の将来に明るい希望をもつものであります。

(さくがわ・ひろし)
沖縄国際大学教授

然し歴史に関わる材料は有限でなく無限であることを思うとき、文書や歴史史料収集はたゆまなく根気強く続けられねばなりません。それとともに史料の整理と、それをもとにした研究体制もしっかり整えねばならないでしょう。そうしたこと踏まると、公文書館の前途は大きな課題を抱えていると云わねばならないでしょう。

歐米を巡っていると、どんな小さな邑や村にもひとかどの文書館が在ることに気づきます。そのひとつはその文書館を自分たちの存在証明をするものとして大切にし、誇りにしている様がよく分かります。

日本でも各地で文書館設置の動きが高まっており人々の関心をあつめています。

沖縄県公文書館はそうしたなかで特色のある傑出したものとして、その将来が期待されるところでしよう。

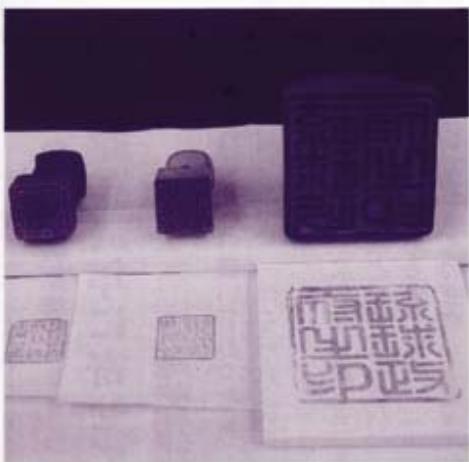
そのためにも、公文書館活動についての啓蒙と、県民よりの協力体制の強化が望されます。

関係者と県民の皆様のより一層の御理解と御協力を切に願う次第です。

沖縄県公文書館一周年記念事業 日程表

*特別講演、講座、映像祭の開場は30分前からです。

	内 容	日 程	場 所
特別展： 琉球政府の時代	テーマ：「琉球政府の時代」 敗戦から復帰までの沖縄県民の歩みを記録資料でたどります。	8／1(木)～8／31(土) 月曜休館(ただし8/5(月)は開館します)	一階講堂 エントランスホール
特別講演： 琉球政府の時代	講師：久場 政彦(元沖縄群島政府財政部副部長、元琉大教授)	8／3(土)14：00～15：30	一階講堂
講座：1～3 琉球政府の時代	講師：儀間 文彰(元琉球政府厚生局長) 講師：兼次 佐一(元那覇市長) 講師：中村 文子(元沖縄県婦人連合会副会長)	8／5(月)18：30～20：00 6(火) // 7(水) //	一階講堂 // //
映 像 祭	「映像は語る」その1 映画「明日を導く人々」「映像は語る」その2 宮森小ジェット機墜落事故映像 映画祭：<琉球>、<沖縄列島>、<執念の毒蛇>、<海を越えてこの感激を>など上映。	8／2(金)15：00～17：00 8／4(日)15：00～17：00 8／5(月)～8／7(水) 16：00～18：00	一階講堂 // 二階研修室 //
館内案内ツアー	定員20名(当日先着順。10歳以下は父兄同伴) ※受付は開始の30分前から始めます。	8／4(日)10：00～11：00 13：30～14：30	全館
保 存 箱 教 室	定員15名(事前電話予約により定員に達し次第締め切れます)※対象中学生以上。受付は開始の30分前から始めます。	8／4(日)10：00～11：00 13：30～14：30	一階 製本補修室



琉球政府の公印

アメリカ統治下の沖縄。そのなかでの住民側の中央政治機構は一九四五年八月スタートの沖縄諮詢会にはしまる。のちに一九四六年の沖縄民政府、一九五〇年の沖縄群島政府などの変遷を経るが、一九五二年四月一日、米国民政府布告第十三号「琉球政府の設立」を受け、立法、行政、司法の三つの機関をそなえた琉球政府が創設される。以後、一九七二年五月の復帰までの二〇年にわたり存続する。写真は琉球政府、琉球政府行政主席の公印。

土地問題



ジエット機墜落

一九五九年六月三〇日、石川市の宮森小学校とその付近の民家に米軍ジェット機が墜落炎上、死者十七名、負傷者二百十名を出す惨事となつた。米軍は翌日「嘉手納基地所属のジェット機が訓練飛行中に突然爆発、パイロットは無事脱出したが、機体は目標がそれ、市内に落ちた」と発表。次いで七月二日には正式発表として、「不可抗力の事故である」とを言明、県民の怒りをかつた。

立法院では本会議開会中に休憩し、緊急各派交渉会を開き、米軍に対する嚴重な抗議を全会一致で決議したほか、石川事件対策特別委員会を設置した。

事故の調査結果が記されている。



一周年記念特別展 琉球政府の時代

8/1~8/31

会場：沖縄県公文書館展示室

沖縄の戦後のあゆみは、新聞や数多くの著書、映像、そしてその時代を生きた人々によって幾度となく検証されてきました。しかし「公文書」が検証の隠れた土台となつたことはあっても、人々の目の前で明らかにされることはほとんどありませんでした。沖縄県公文書館では開館一周年を記念して特別展「琉球政府の時代」を開催し、「公文書」の視点で沖縄の足跡を振り返ります。

展示資料は主に、公文書館が所蔵する琉球政府文書や琉球政府を象徴する品々、沖縄の地位を決定付けた条約などから構成され「軍用土地問題」、「行政主席」、「復帰」などのテーマに沿つて見ることが出来ます。敗戦から復帰までのアメリカ統治の二十七年間、琉球政府と民衆の動きが文書にどのように記録されたのか、多くの方々に見ていただきたいと思います。

キヤラウェイ施策

一九六一年、ポール・W・キヤラウェイ中将が三代目の高等弁務官に就任する。六四年八月までの三年六ヶ月にわたる任期のなかで彼は、徹底的な能率主義のもと、独断的に諸政策を断行し、必要であれば總する「布令」を発布し、改革を強行するという「直接統治」、「布令政治」をおこなった。そのような彼の直接統治を象徴するエピソードとして「自治神話説」がある。

キヤラウェイは一九六三年三月五日、米留経験者の親睦団体である金門クラブで「沖縄が独立しないかぎり、自治権は神話である」という主旨の演説を行った。自治神話説は、異民族支配から脱却するという沖縄住民の権利の否定を意味していた。

写真は労働局労政課作成の雑書に綴られていて「自治神話説」の日本語訳全文と英文ニュース、リリース。



行政主席

毒ガス移送

一九六九年七月、沖縄の米軍知花弾薬庫貯蔵地域内に毒ガス兵器が存在することが明らかになった。貯蔵量は致死性のものを含め一万三千トン。しかも米軍以外に配備されているのは沖縄だけであり、住民に不安と恐怖を与えた。このため、各種団体などの抗議声明や、立法院の全会一致による「毒ガス兵器の撤去要求決議」、各市町村議会の撤去決議、及び復帰協主催の「毒ガス兵器の即時撤去を要求する県民大会」が相次いで行われるなど、島ぐるみの撤去運動が展開された。その結果、米軍は米国領内のジョンストン島に毒ガスを移送することを決定。一九七一年一月と七月の二回にわたり、知花弾薬庫から天願橋までの行程で毒ガス移送がおこなわれた。

琉球政府の首長として「行政主席」がおかれて、立法機関、司法機関にたいして、執行機関としての地位を持っていた。当初、主席の選出方法は高等弁務官による直接任命制が採られていたが、一九六二年、大統領行政命令が改正。立法院指名制移行により、高等弁務官が任命する方式になつた。

六〇年代、自治権拡大の動きと共に主席公選要求が高まる。六四年十月二十九日、松岡政保氏を主席に指名する議会は主席公選を要求する声により混亂。警官隊導入により指名が実現した。六年三月には立法院による間接選挙制が採用されたが、そのときも主席公選を求めるデモ隊と警察隊が衝突する。写真の辞令書・当選通知書は六四年と六六年に松岡主席へ授与されたもの。「最後の任命主席でありたい」という彼の願いは、八年に主席が公選制になることにより実現する。



復帰

一九六九年十一月の佐藤・ニクソン会談において「核抜き・本土並み」による沖縄の七二年返還が合意。七二年一月の第二回佐藤・ニクソン会談では五月十五日の復帰が確認された。返還合意をうけて、日本政府は「沖縄復帰対策要綱」を三次にわたりて閣議決定することにより、沖縄の復帰問題の処理にあたることになる。第六十七回臨時国会、いわゆる沖縄国会では、沖縄返還協定の審議を行うための「衆議院沖縄返還特別委員会」が設置された。同特別委員会開会中の七二年十一月十七日、屋良朝苗主席は、「復帰措置に関する建議書」(写真)を携えて上京。日本政府に対し、核抜き返還をはじめ、多方面にわたり特別措置案を建議する。

収集資料紹介

ガリオア留学生記録フィルム

明日を導く人々

平成八年五月二十九日に琉球大学名誉教授安次富長昭氏から沖縄県公文書館へ「明日を導く人々」と題した十六ミリ映画フィルム（白黒・三〇分）の寄贈がありました。

このフィルムは一九五二年のガリオア留学生の記録で「米国軍政府情報教育部が米軍統治下にある琉球諸島住民へアメリカの民主制や生活文化を紹介する目的で制作したもの」と当時の米国スプリングフィールド・ニュースサン紙は報じています。

映画は米国留学生の選抜、渡米前の予備教育、壮行会、サンフランシスコの金門をぐるり米国上陸後のオーランド州ミルズカレッジにおける六週間の英語の訓練、アメリカの地理・歴史などの予備教育を受けた後にアメリカ全土の四十三の大学に配属されて勉学に励む過程が記録されています。そのなかでも特に、七十五人の留学生の中から奄美、沖縄、宮古、八重山の各群島政府の行政地域から四人が出演者として選出され、それぞれの留学先や専攻科目、学園や地域での勉学、交流などを紹介しています。



富名腰義珍

空手関係資料

平成八年五月四日、埼玉県川越市在住の柏谷真敬氏より富名腰義珍の空手に関する資料の寄贈がありました。その内訳は段位免状二葉、空手演武フィルム三巻、書籍など九冊、写真二十葉の計三十四点となっています。これらの資料

は柏谷氏の父親で、富名腰より直接空手の指導を受けた元慶應義塾大学教授の故柏谷真洋氏が大切に保管していたもの。そのなかには段位制度を導入した初年度である一九二四年に日本で最初に授与された眞洋氏の空手初段の段位免状も含まれています。

映画は、見学者が大人数の時は十六ミリ映写機による上映、少人数の場合はビデオにより視聴することができます。

映画は、見学者が大人数の時は十六ミリ映写機による上映、少人数の場合はビデオにより視聴することができます。

資料は、空手の型はもとより空手の普及活動の歴史を知る貴重なものです。資料を受け継ぎ、保存していた柏谷氏の「個人で所有するよりも、沖縄県公文書館に寄贈して多くの人に活用していただきたい」との意向により、本公文書館で保存していくことになりました。

富名腰義珍、空手関係の映像資料は現在、「富名腰義珍、慶應大学空手道」とのタイトルで二十八分間のビデオになっており、公文書館閲覧室で閲覧申請を行えば、どなたでも視聴できます。その他印刷物、写真などの資料についても閲覧可能です。

富名腰義珍（ふなこし・ぎちん）一八六八—一九五七）首里に生まれる。松濤館（しょうとうかん）流空手道の開祖で、県外に初めて空手を紹介。世界的普及発展の基礎を固めた。

一九二二年に文部省主催第一回体育ならびに古武道展覧会で空手を演武。以後東京に定住し東京六大学、講道館、その他の空手師範を歴任。一九二四年、日本最初の空手の段位制度を設ける。写真中央の人物が富名腰義珍。

（柏谷氏寄贈の写真より）



公文書館つてどんなところ? ①

琉球政府文書整理担当／閲覧業務担当 篇

沖縄県公文書館が開館し、はや一年を迎えようとしています。利用者による公文書館のイメージとして「敷居が高い」「どう利用したらいいのかわからない」といった声があるのも現実。そこで「公文書館つてどんなところ?」という疑問に少しでも答えるべく、公文書館の各セクション、その業務内容を紹介します。

國琉球政府文書整理担当

「琉球政府文書」(琉政文書)とは、戦後沖縄が米軍に占領され、米国民政府のもとに琉球政府が創立されて以来、日本復帰までの二十七年間、琉球政府を主とする機関で作成された文書類の総称である。その文書整理を担当するのが資料第二課の通称「琉政チーム」である。(専門員と総括嘱託員が一名、一般嘱託員六名)。

四月から現在までの業務は①対米請求権事業協会引継資料の仮目録作成②労働省沖縄婦人少年室引継資料の仮目録作成③軍雇用員カードの整理④一周年記念事業展示資料検索⑤土地所有権申請書の整理、などである。

③の業務は、年金受給証明等の必要書類として間覧申請がある場合、二百余あるカード箱のなかから効率的に検索ができるよう、目録を作成することが目的である。

一箱約九百枚のカードを氏名のアルファベット順に並べ、姓字ごとに区切り、本籍地住所記号、名前、枚数をデータシートに記入していく。作業開始時、カードの分類基準は不明であったが、作業を勧めていくうち、本籍地住所別に分類されたいということが判明した。例えば「C」で始まる履用者番号は北谷、読谷、宜野湾、浦添など、

中部の出身者用といったように、特定の地域などにカードがまとめられていたのだ。

資料は復帰前のものため、カビが発生しているものもある。そのため職員の健康を考え、以上の作業は、防塵マスク、手袋を着用のうえで行っている。

今後は①琉球政府文書の内要件名取り②個人及び団体所蔵の琉政文書の収集整理③沖縄群島政府から琉球政府までの公報及び刊行物の収集・整理、を予定している。以上の整理が完結し、琉球政府時代の文書が多くの人々により有効に活用されるよう琉政チーム一同頑張っている。



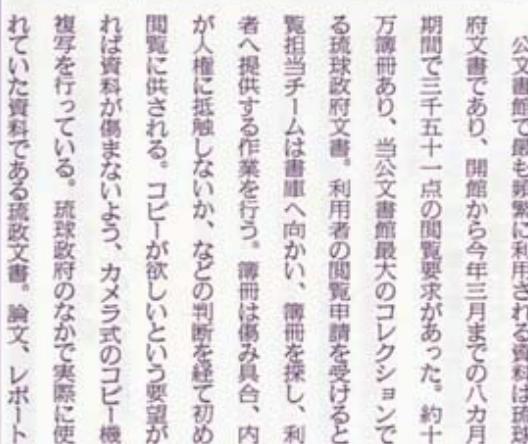
國閲覧業務担当

自己史作成のための原資料として、またアメリカ統治時代の沖縄を思い起させるものとして閲覧する利用者は多い。

その他、閲覧室では土地所有権申請書の提供も行っている。戦後、米軍は占領政策の一環として「土地制度の整備」をあげ、その際の沖縄本島の土地調査の結果として土地所有権申請書を作成させた。作成から約半世紀たった現在でも土地所有権申請書が土地の所有権、境界裁判などの参考資料として使用されることがある。

閲覧担当によるサービスの提供が公文書館の利用者増につながればと思う。

公文書館で最も頻繁に利用される資料は琉球政府文書であり、開館から今年三月までの八ヶ月の期間で三千五十一点の閲覧要求があった。約十五万簿冊あり、当公文書館最大のコレクションである琉球政府文書。利用者の閲覧申請を受けると閲覧担当チームは書庫へ向かい、簿冊を探し、利用者へ提供する作業を行う。簿冊は傷み具合、内容が人権に抵触しないか、などの判断を経て初めて閲覧に供される。コピーが欲しいという要望があれば資料が傷まないよう、カメラ式のコピー機で複写を行っている。琉球政府のなかで実際に使われていた資料である琉政文書。論文、レポートや



いんふおめしょん

所蔵資料検索・ 館案内システム

沖縄県公文書館では、閲覧展示機、管理機合わせで「十一台のパソコン」が稼動しており、館利用者や団體への情報提供を行っています。その中でも閲覧機設置の七台には画面の表示に従って、画面を操作しながら「マーク」を進行させながら「ナビゲーション」機能が備わっています。「セルフ」による簡単な操作で、所蔵資料の情報、公文書館の業務内容を得ることができます。利用者用システムを紹介します。

文書管理システム

沖縄公文書館所蔵の資料を検索するためのシステムで、当館所蔵資料約十八万件についてのデータが入っています。タイトルや作成年度、資料タイプ、メティアタイプなどの情報により資料を探す方法の他、手がかりになる言葉を入力し、資料を探す自由検索も行えます。検索後そのまま閲覧申請書を印刷し、カッターライフ手書きを用いて資料を見つめます。

◆館案内システム
歴史電脳絵巻



文書管理システム▶
行政機構図
検索システム



歴史電脳絵巻

先史時代から新生沖縄にいたるまでの沖縄の歴史を十の時代に区分。年表や写真、イラストなどを使って画面上でわかりやすく説明します。見た目を表示し、年表中の色付きの文字を指で触れるなど、文字の内容が写真や解説文などに沿って表示され、非常にわかりやすくなります。

館案内システム

閲覧棟一階展示室入り口と二階閲覧室入り口に計二台が設置されています。内容は①施設案内、②利用案内、③行事案内(このせいかい)にわかれています。沖縄県公文書館の業務、建物の構造、利用方法を紹介します。特に③の「フロア紹介」も「マーク」では書庫や製本修復室などの公文書館の施設を写真で紹介します。

心になります。

そのなかで、第一種文書の保存期間が「長期」なので「10年未満」が挙げられます。「これまで、行政的に最も価値が高い」とされる第一種文書は、文書学事課が管理する県庁地下の文書保存管理室に半永久的に保存されています。それが今回の改正により「10年」の保存期間終了後は、公文書館へ移管されることがあります。

わざわざその他の有期限(十年保存、五年保存、三年保存)文書もそれぞれの保存期間満了後は公文書館へ引き渡されます。今回の改正はその点も明確にしています。まだ、文書学事課に引き継がれず、各課で保管しているうちに保存年限が終了した文書も、公文書館へ移管されるようになります。

こうして規程上は、第五種(一年保存)以外の文書がもれなく公文書館へ移管されるという体制が整いました。移管された文書は、公文書館の中間書庫に納められ、歴史的文書(アーカイブ)として選別される時を待ちます。

●文書編集保存規程の改正と公文書館

沖縄県文書編集保存規程の一項が平成八年三月三十日付けて改正、翌日から施行されました。この改正は、沖縄県公文書館の開館にともない、保存期間の終了した知事部局の文書を公文書館へ引き渡すための関連規程整備力中

の停止」を公布。通称「ミツツ布告」と呼ばれるこの布告は、米国による沖縄統治の基本法であり、二十七年にわたる「アメリカ世」の始まりを意味するものだった。表紙写真はミツツ布告の和訳文ガリ版刷り(当館蔵)。

□マークを募集!

学術、文化の振興に寄与する本公文書館を象徴するような、□マークを募集しています。

◆応募規程

①サイズ、A4判の用紙(作品の大きさは十センチ四方以内)②色数、白のぞき三色以内③点数、一用紙に作品一点(未発表のオリジナル作品)④応募資格、県内在住者

◆応募方法、作品裏面に製作意図、住所、氏名、年令、職業、電話番号を明記して沖縄公文書館「シンボルマーク募集」係まで郵送◆締切

り(平成八年十一月一日(当日消印有効))◆賞／最優秀賞五万円／準優秀賞二万円

◆発表／平成九年一月に本館にて(入選者に直接通知)◆応募上の注意／入選作品は補作となります。また、作品の返却はいたしません。宛先は左記あります。

沖縄県公文書館

〒901-111 沖縄県南風原町字新川一四八-十三
電話(098)888-13875
ファックス(098)888-13879